

嘉麻市地域公共交通計画の策定について

令和4年12月10日

嘉麻市交通政策課

地域公共交通計画策定作業スケジュール

	令和4年												令和5年											
	8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
(1) 地域公共交通計画策定に関する調査・検討																								
① 現状把握及び課題の整理																								
ア 既存資料収集																								
イ 市民アンケート																								
ウ 利用者アンケート																								
エ 高校生アンケート																								
オ 交通事業者ヒアリング																								
カ 課題の整理																								
② 計画（案）の作成																								
③ パブリックコメント																								
④ 計画（案）の修正																								
⑤ 計画書等作成																								
(2) 地域公共交通会議																								
(3) 国土交通大臣認定申請																								

第16回まちづくりに関する調査特別委員会で報告済み

アンケートの調査の概要

1 全体概要

1) 調査目的

嘉麻市地域公共交通計画策定の基礎資料として、市民の移動実態や移動ニーズ、公共交通の利用意向などを把握するため、アンケート調査を実施する。

2) 実施する調査と概要

アンケート調査は、嘉麻市の公共交通が目指す方向性や施策等を検証するために実施することから、各調査で把握すべき内容を明確化かつ棲み分けしたうえで実施する。

調査は、「①市民アンケート」、「②利用者アンケート」、「③高校生アンケート」の3種類とする。

表1 実施する調査と概要

項目	市民アンケート	利用者アンケート	高校生アンケート
対象者	市民3000人を対象（無作為抽出）	公共交通利用者	嘉飯桂地区高等学校7校の高校生
主な把握内容	<ul style="list-style-type: none">・ 普段の移動実態、ニーズ・ 公共交通の利用意向、利用するために望ましいサービス・ 利用促進のための施策	<ul style="list-style-type: none">・ 公共交通に関する満足度、改善内容・ 乗継を許容する条件、水準	<ul style="list-style-type: none">・ 通学の移動実態・ 通学での公共交通の利用意向、利用するために望ましいサービス
計画策定において考慮すべき点	<ul style="list-style-type: none">・ 公共交通の路線網、サービス水準・ 交通結節点の場所・ 利用促進に向けた施策・ 将来的な利用ニーズの把握	<ul style="list-style-type: none">・ 公共交通の路線網、サービス水準・ 利用負担の少ないサービス、施策	<ul style="list-style-type: none">・ 公共交通の路線網、サービス水準
サンプル確保の考え方	旧市町4地域、「高齢者」「非高齢者」別に統計的に分析可能なサンプル数を確保	市全体で統計的に分析可能なサンプル数を確保	対象者は全数調査

第16回まちづくりに関する
調査特別委員会で報告済み

2 市民アンケート調査

1) 調査対象

- ・【調査方法】 郵送配布・郵送回収
- ・【調査対象】 18歳以上の市民3,000人無作為抽出

2) 調査物件

以下を配布用封筒（角2型）に入れて、郵送する。

- 依頼文及び啓発資料「嘉麻市の公共交通の状況について」
- 調査票
- 返信用封筒

表2 市民アンケートの調査内容(案)

項目	内容	ねらい・活用方法
1あなたご自身について	<ul style="list-style-type: none"> ● 個人属性（住所、性別、年齢、職業） ● 自動車免許、自由に使える自動車、送迎を頼める人の有無 ● 最寄バス停と距離（徒歩時間） ● デマンド運行バスの登録状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年代や居住地等によるニーズの違いを把握（クロス集計用） ・ 公共交通で担うべき対象者の把握
2 普段の外出行動・ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ● 私用における移動の実態（目的地、目的、手段） ● 私用における現状の移動ニーズ（公共交通の利用を想定した外出行動、目的地） ● 通勤・通学における移動実態 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通でカバーすべき移動、望ましい路線網の検討
3 公共交通の認知・考え	<ul style="list-style-type: none"> ● 財政負担、サービス、取組の認知 ● 公共交通の必要性 ● サービスと財政負担に対する今後の方向性 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通の周知度、目指す方向性の検証
4 バスの利用意向	<ul style="list-style-type: none"> ● バスの利用意向 ● 利用するために重視するサービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 路線網、サービス水準の検討
5 公共交通の維持・充実にむけた取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通の維持・充実に向けた取組 ● 乗り継ぎ負担軽減のための取組、乗継拠点について ● 市民参画に対する意向 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画に位置づける施策の検討
6 自由意見	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通全般に対する自由意見 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な課題・ニーズ等の把握

第16回まちづくりに関する調査特別委員会で報告済み

3 利用者アンケート調査

1) 調査概要

(1) 調査方法

主要バス停におけるヒアリング形式（乗車待ち時を基本）とする。

(2) 調査日・時間帯

公共交通の主たる利用層である高齢者の移動を想定し平日の日中とする。

調査日は、9月下旬頃、調査時間帯は平日9時～17時を予定。

(3) 調査対象バス停

利用者が多い交通結節点等のバス停とする。

市バスの乗車数が多いバス停を基本に、西鉄バス利用者への調査対応の可否も踏まえて以下の6か所を予定。

■調査対象バス停（案）

①総合バスステーション ②嘉麻市役所 ③生涯学習館 ④日赤病院前・日赤病院 ⑤碓井庁舎 ⑥桂川駅

第16回まちづくりに関する 調査特別委員会で報告済み

バス停名	所在地	利用者数	平日乗降者数	民間路線対応
総合バスステーション	嘉穂	1,769人	8.4人	○
嘉麻市役所	稲築	2,890人	12.4人	○
生涯学習館	山田	3,717人	17.3人	○
日赤病院前・日赤病院	山田	5,356人	21.6人	—
碓井庁舎	碓井	5,302人	22.8人	○
桂川駅	桂川	6,494人	25.3人	○

※ 令和4年4月から7月までの利用者数。嘉麻市役所バス停は嘉麻市役所前を含む。

※ 生涯学習館の近隣にある山田支所バス停にて西鉄バス路線についても聞き取りを実施。

2) 設問内容(案)

調査目的に基づき、以下を基本とする。

表3 利用者アンケートの調査内容(案)

項目	内容	ねらい・活用方法
1個人属性	<ul style="list-style-type: none"> ● 性別、年齢 ● 居住地 	・基礎情報として把握
2利用実態	<ul style="list-style-type: none"> ● よく利用する路線、目的地、利用目的 	
3バス利用における満足度、ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ● バス利用における満足度 ● 不満なサービスと改善内容 (ルート、運行間隔、運行時間帯、定時性、運賃、乗継、バス停環境等) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 路線網、サービスの検討 ● 施設の検討
4乗継しやすい条件	<ul style="list-style-type: none"> ● バス路線間の乗り継ぎ状況 ● 乗継しやすい条件・水準（待ち時間・料金・併設施設等） 	● 乗り継ぎ負担軽減策の検討
5その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 休日・年末年始の市バスについて ● 自由意見 	・具体的な課題・ニーズ等の把握

第16回まちづくりに関する調査特別委員会で報告済み

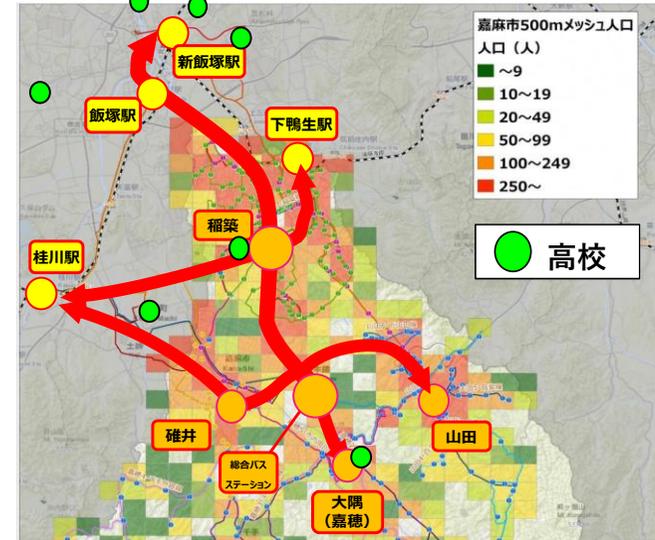
4 高校生アンケート調査

1) 調査対象

- ・【調査方法】学校を通じて高校生にアンケート調査
- ・【調査対象】下記7校のうち、嘉麻市内居住者等

《対象箇所(案)》

- ・稲築志耕館高等学校
- ・嘉穂総合高等学校嘉麻市立大隈城山校
- ・嘉穂総合高等学校
- ・嘉穂高等学校
- ・嘉穂東高等学校
- ・近畿大学附属福岡高等学校
- ・嶋田学園飯塚高等学校



2) 設問内容(案)

第16回まちづくりに関する 調査特別委員会で報告済み

項目	内容	ねらい	活用方法
1あなたの通学について	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校名 ● 住所、性別 ● 登校、下校時刻（休日の登校日を含む） ● 利用交通手段 ● バスの利用状況（所要時間、利用路線、乗車バス停等） ● バスと鉄道、バス路線間の乗り継ぎ状況 	・ 基本情報の把握	
2通学での利用意向	<ul style="list-style-type: none"> ● 通学補助金の認知 ● 通学におけるバスの利用意向 ● 通学で利用するために重視するサービス 	・ 路線網、サービス、施策の検討	
3自由意見	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通全般に対する自由意見 	・ 具体的な課題・ニーズ等の把握	

1 はじめに

- ・計画の位置付け、区域、期間

2 地域の現状

- ・各種統計資料に基づく、人口、施設分布、移動状況、交通・自動車等に係る現状分析

3 上位・関連計画

- ・市の上位計画（総合計画、福祉、観光等各種計画）
- ・県及び近隣市町村交通計画

4 公共交通の現状

- ・鉄道、バス、タクシー、その他輸送資源等に係る現状分析

5 公共交通に関する課題

- ・各種アンケート調査結果、事業所ヒアリング内容、地域公共交通網形成計画の評価等から課題の抽出

6 基本方針と目標

- ・各種課題を踏まえた当該計画における基本方針と目標設定

7 目標の実現に向けて実施する施策・事業

- ・課題解決に向けた具体的な施策の整理
- ・施策の実施主体、スケジュール等の整理

8 評価指標・目標値

- ・施策に対する評価指標及び目標値の設定

9 計画の推進

- ・施策の進捗管理及び関係者との連携に関する事項の整理

第16回まちづくりに関する調査特別委員会で報告済み

地域公共交通会議

- ▶ 第2回嘉麻市地域公共交通会議（令和4年8月30日）
 - 【協議事項】
 - ・交通計画策定スケジュール
 - ・交通計画構成及び骨子案
 - ・アンケート調査の実施について
- ▶ 第3回嘉麻市地域公共交通会議（令和4年11月28日）
 - 【協議事項】
 - ・交通計画素案（現状分析、各種調査結果、課題抽出、目標及び施策の概要）
 - ・各種アンケート調査結果（速報値）

アンケート調査

項目	市民アンケート	高校生アンケート	利用者アンケート
対象者	18歳以上の市民	嘉麻、飯塚市内及び桂川町の高校	市バス等利用者
把握事項	<ul style="list-style-type: none"> ・認知度 ・利用意向、求めるサービス ・利便性向上に係る施策等 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学移動実態 ・利用意向、求めるサービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用満足度 ・改善及び要望 ・乗継利用に関する条件等
調査方法	郵送配布・回収	学校内での配布・回収	主要バス停でのヒアリング
配布回収	<ul style="list-style-type: none"> ・配布3,000票 ・回収865票 ※回収率28.8% 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布400票 ・回収373票 ※回収率93.3% 	回収数83票
調査期間	令和4年9月から10月	令和4年9月から10月	令和4年9月28日

嘉麻市地域公共交通計画(案)のポイント

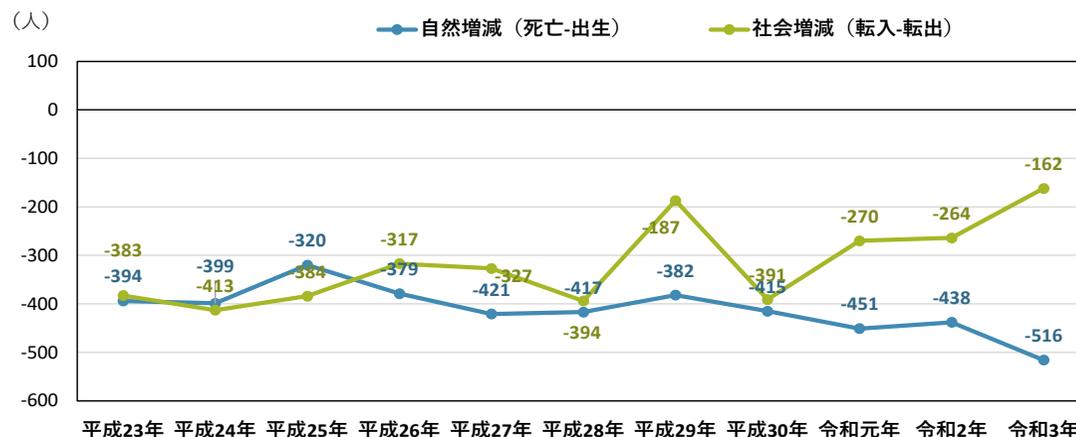
1 はじめに

- ・計画の区域 嘉麻市内全域及び関連する周辺地域
- ・計画期間 令和5年度から令和9年度の5年間
- ・計画の位置づけ 第2次嘉麻市総合計画等を上位計画とし、地域福祉計画やその他の関連計画と整合を図る。

2 地域の現状

【人口動態】

- ・人口動態は、自然増減（死亡-出生）に加え、社会増減（転入-転出）も減少超過
- ・社会増減については、転出超過が続いているものが減少傾向にあり、直近の令和3年では子ども（0歳から15歳）と中年層（41歳から64歳）は転入が超過となっている。



【主要都市への移動手段】

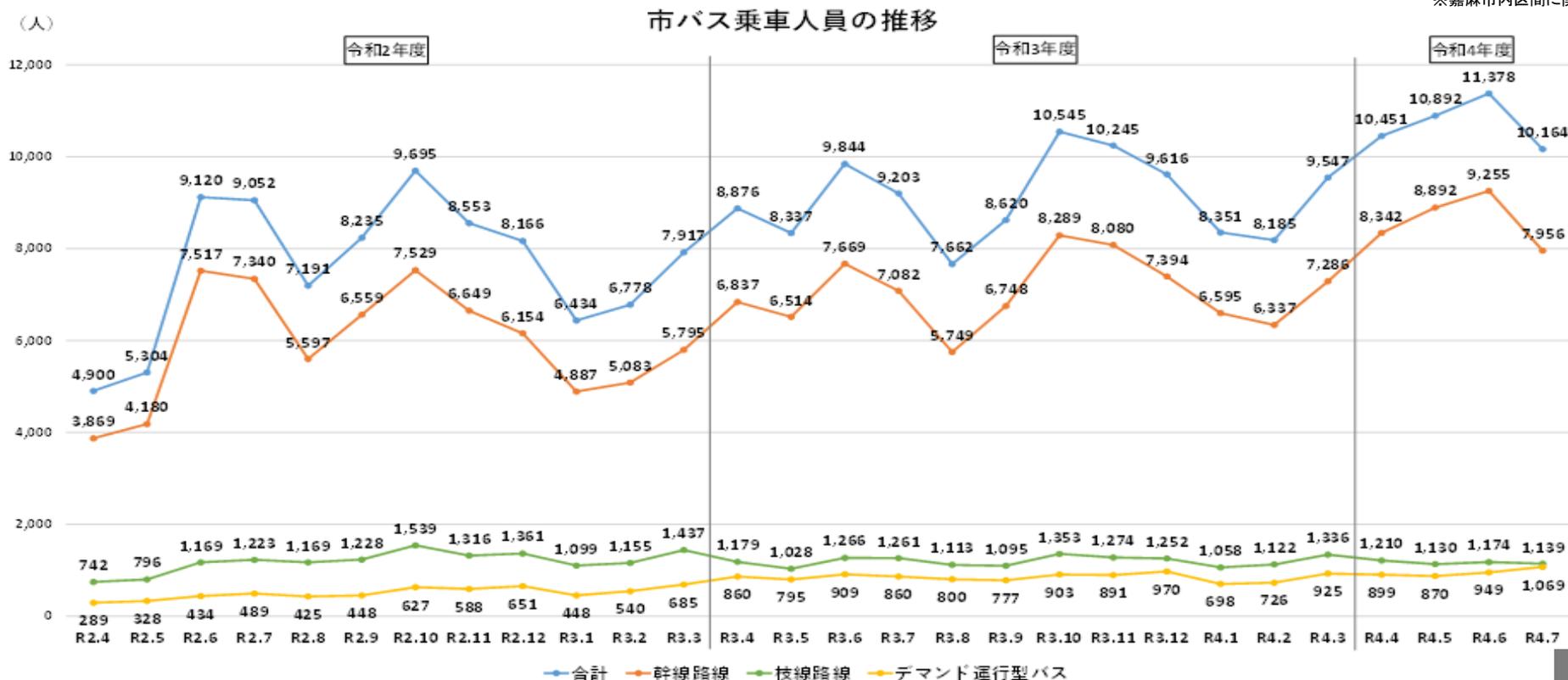
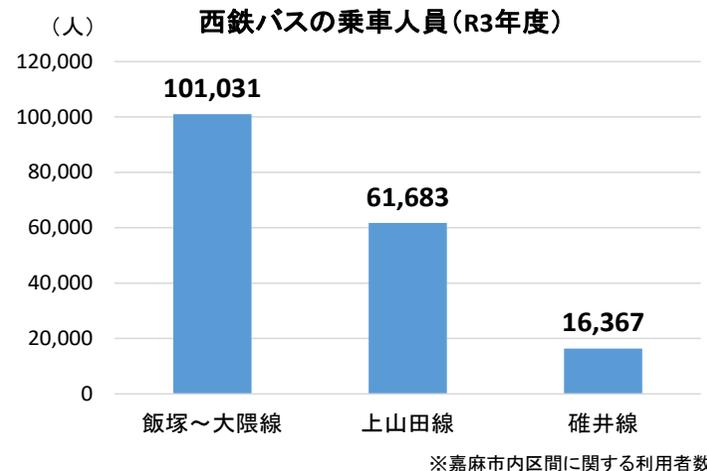
	総数	鉄道利用					乗合バスのみ	勤め先・学校のバスのみ	自家用車のみ
		総数	鉄道のみ	鉄道とバス	鉄道と自動車	鉄道(その他)			
北九州市	265	61	29	5	20	7	1	2	185
飯塚市	4,316	86	40	14	19	13	161	40	3,754
福岡市	799	476	145	51	220	60	13	-	263

- ・飯塚市への通勤・通学の利用交通手段は、「自家用車のみ」が3,754人と圧倒的に多く、公共交通では「乗合バスのみ」が161人と多い。
- ・福岡市へは、「鉄道利用」が476人と最も多く、内訳として「鉄道とバス」が51人に対して、「鉄道と自動車」が220人と、家族等の送迎や駅周辺への駐車場利用が多いと見込まれる。

3 公共交通の現状

【利用状況】

- ・市内のバス乗車人員は、西鉄バス17.9万人と市バス10.9万人を併せて年間約28.8万人（令和3年度）。
- ・路線別では、路線バス・市バスを含め、西鉄飯塚～大隈線の利用者数が最も多く、市バスの乗車人員は、令和2年度の再編による運行開始以降、増加傾向で推移。



3 公共交通の現状

【地域公共交通網形成計画の評価】

- ・現在のマスタープランである、嘉麻市地域公共交通網形成計画に位置付けた実施事業に対する進捗状況は、概ねすべての事業を実施しており、改定時に新規に追加した事業については今後実施していく予定としている。
- ・数値目標に対する達成状況では、「市バスの収支率」が目標20%に対して、実績17%と未達成であり、今後より一層の利用促進や効率性の向上が求められる。

目標		現状(計画策定当初)	当初目標値(H33)	達成状況(R2)	達成状況(R3,R4)	最終目標値(R4)	備考
評価指数	指標の設定根拠						
目標1：嘉麻市の活性化政策を推進する安心・安全な公共交通の構築							
高校生の通学時の市バス・民間バス利用率	路線の再編により通学時のバス利用の定着・改善状況を計る	26.7% (H25)	30% (H33)	令和4年度調査実施	51%	30%	令和4年9～10月実施の高校生アンケート調査より
目標2：分かりやすく利用しやすい公共交通の実現							
市バスの停留所表示の統一	施策の実施状況を評価する	統一されていない	統一済	統一済	統一済	統一済	達成済であるため今後停留所を新設した際にも統一した表示を行う。(維持)
目標3：利便性の高い交通環境の構築							
交通結節点の設置箇所数	施策の実施状況を評価する	0箇所 (H27)	5箇所 (H33)	5箇所	5箇所	5箇所	達成済
公共交通人口カバー率	交通空白地域解消に向けた施策の効果を計る	74% (H22)	85% (H33)	100%	100%	100%	達成済であるため今後も100%を維持する。
目標4：持続性のある交通体系への転換							
市バスの収支率	持続性の改善に向け、公共交通投資の効率化状況を計る	10.0% (H27)	20% (H33)	14%	17% 未達成	20%	

《収支率について》

高齢者交通支援事業の実施に伴い、回数券販売に係る運賃収入が減少している。なお、令和3年度の回数券販売実績に基づき算定した運賃収入影響額を加算すると収支率22%を超える状況となっている。

4 上位・関連計画

▶福岡県交通ビジョン2022（令和4年3月）

本市の公共交通に特に関する施策の方向として、『地域公共交通の維持・確保』、『誰もが移動しやすい交通環境の推進』、『まちづくりと連携した交通環境の整備』などが位置付けられている。

▶嘉飯圏域定住自立圏共生ビジョン

嘉飯圏域定住自立圏共生ビジョンでは、公共交通に関する施策として、『赤字路線バス運行補助』、『地域公共交通連携の推進』が位置付けられている。

▶第2次嘉麻市総合計画・後期基本計画（令和4年9月）

基本方針「自然と共生する安全・安心なまちづくり」として、基本施策『公共交通の利便性の確保』が位置付けられ、『安全・安心』、『分かりやすく利用しやすい』、『利便性の高い』、『持続性のある』というキーワードが示されている。

▶嘉麻市過疎地域持続的発展計画（令和3年度～令和7年度）

人口減少や厳しい財政状況下において、公共交通を「移動手段を持たない市民の支え」として、「地域・事業者・行政が一体となった取組み」を行い、利用促進や効率的な運行、利便性向上を図ることで、「定住促進に繋げる」ことなどが示されている。

▶第2期嘉麻市地域福祉計画（令和3年3月）

基本目標3「安全安心に暮らせるまちづくり」における公共交通に関する取組として、市民や地域は「公共交通の要望の声の報告」、行政は「ニーズ把握や改善に努める」ことなどが示されている。

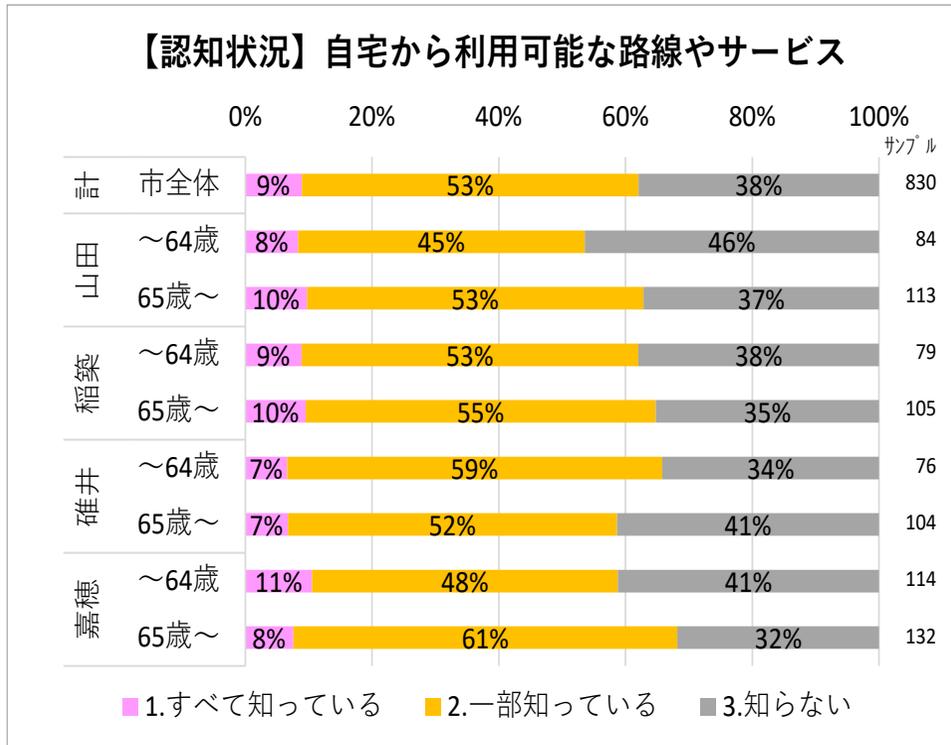
▶第3次嘉麻市観光振興基本計画（令和4年4月）

コンセプトとして「アウトドアシティ嘉麻」を掲げ、目標数値として「観光消費額」や「観光入込客数」、「来訪者・市民満足度」などが設定されている。

公共交通としても、来訪や回遊しやすい環境づくり面などから貢献することが求められる。

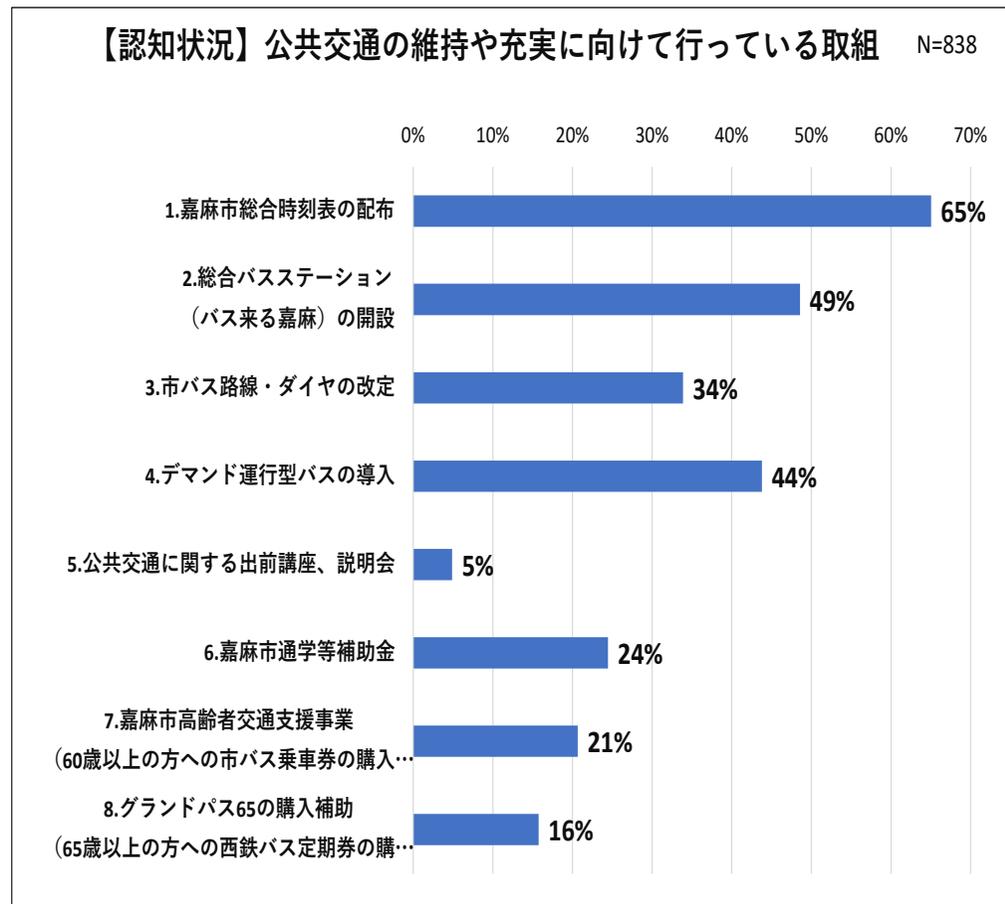
5 市民・利用者のニーズ

【市民アンケート調査】



自宅から利用可能な路線やサービスの認知状況は、「すべて知っている」「一部知っている」を合わせて約6割に留まっており、約4割は「知らない」と回答。

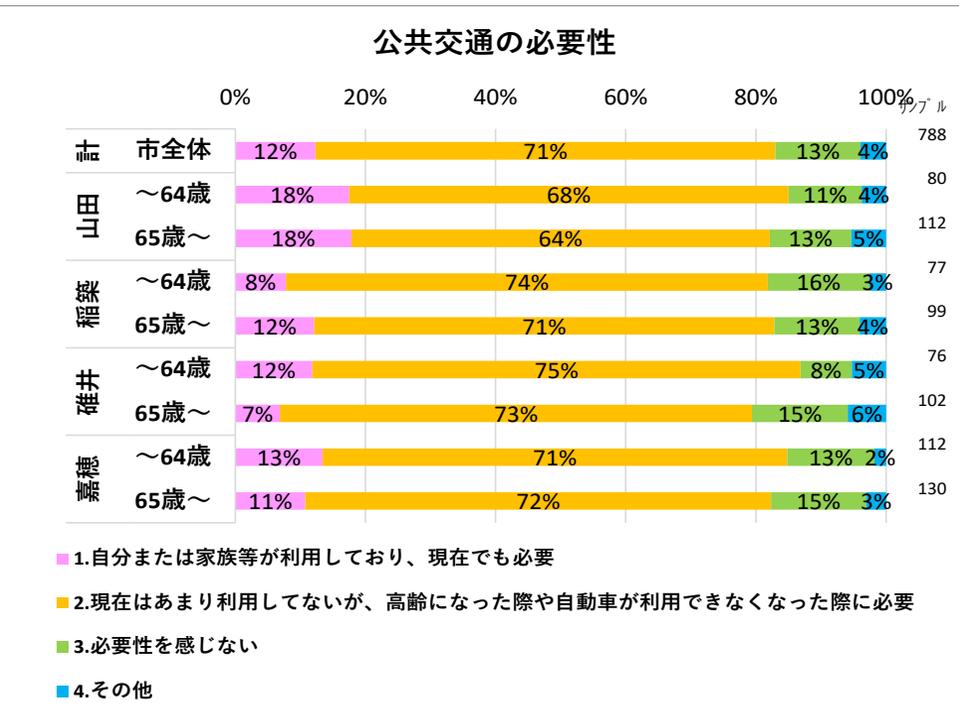
取組の認知状況は、嘉麻市総合時刻表の配布が約65%と最も高く、次いで総合バスステーションの開設、デマンド運行型バスの運行などが比較的高い。一方、公共交通に関する出前講座、説明会は5%に留まっている。



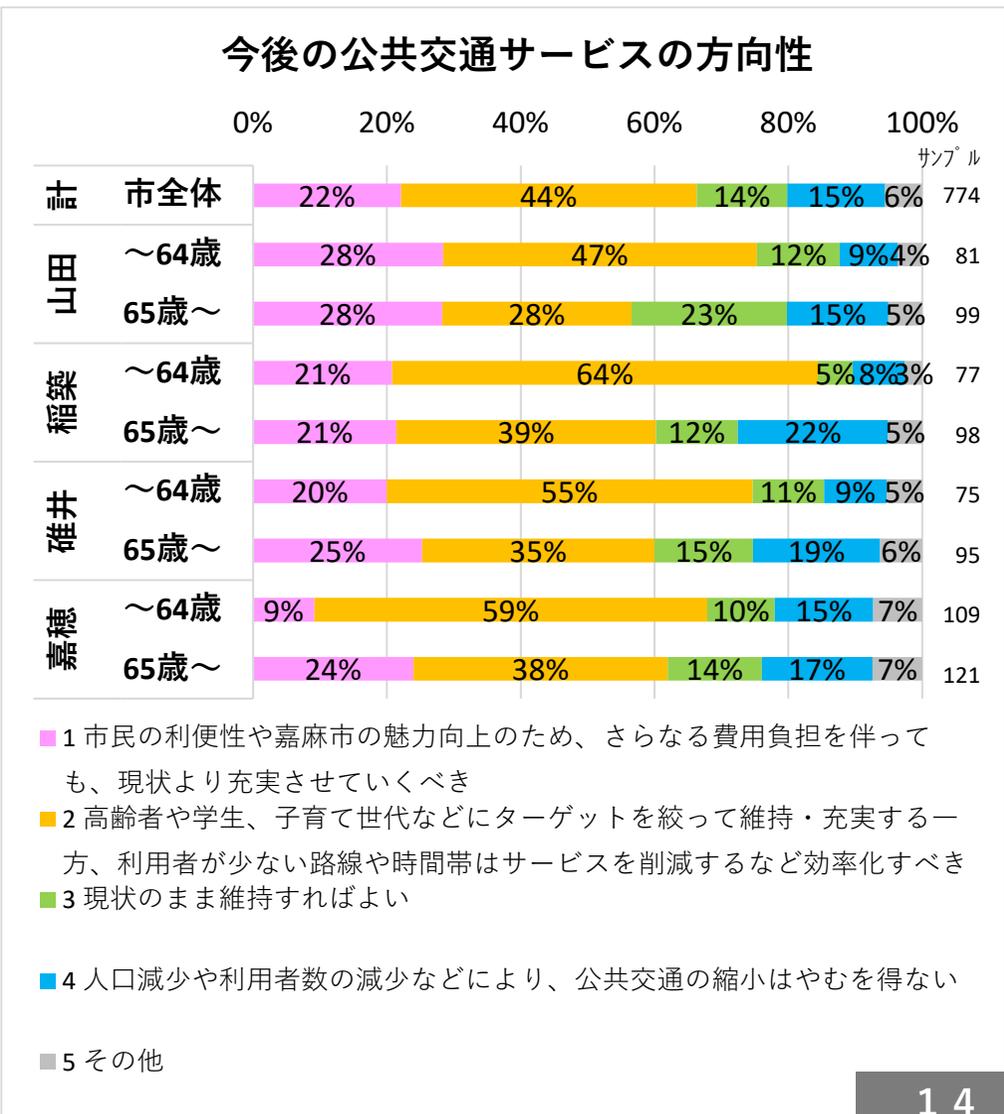
5 市民・利用者のニーズ

公共交通の必要性は、「自分または家族が利用しており、現在でも必要」、「現在はあまり利用していないが、高齢になった際や自動車が利用できなくなった際に必要」を併せて8割以上が必要性を感じている。

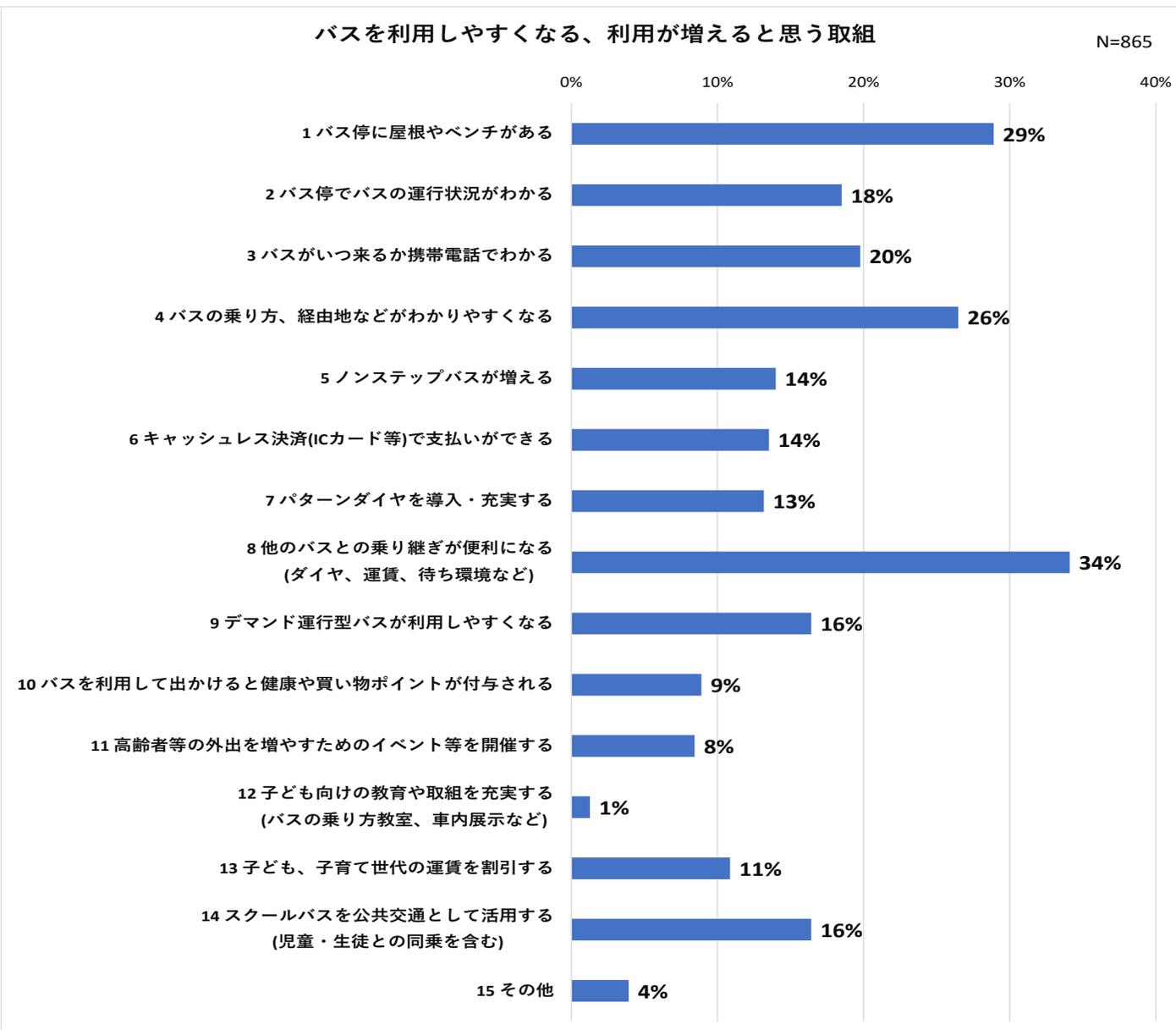
ただし、自分または家族等が利用し、現在でも必要は12%に留まっており、今後、必要性を感じている人に対する利用促進が求められる。



今後の公共交通サービスの方向性として「2.高齢者や学生、子育て世代などにターゲットを絞って維持・充実する一方、利用者が少ない路線や時間帯はサービスを削減するなど効率化すべき」が44%と最も多い。



5 市民・利用者のニーズ

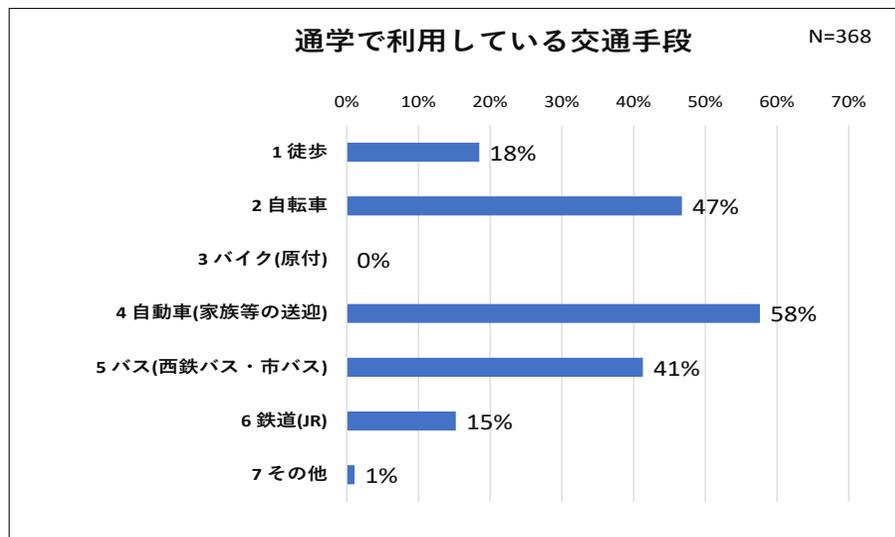


バスを利用しやすくなる、利用が増える取組として、「他のバスとの乗り継ぎが便利になる」が34%と最も多く、次いで「バス停に屋根やベンチがある」、「バスの乗り方、経由地などがわかりやすくなる」の順に多くなっている。情報提供面についても、「バスがいつ来るか携帯電話でわかる」、「バス停でバスの運行状況がわかる」がそれぞれ4、5番目と多くなっている。

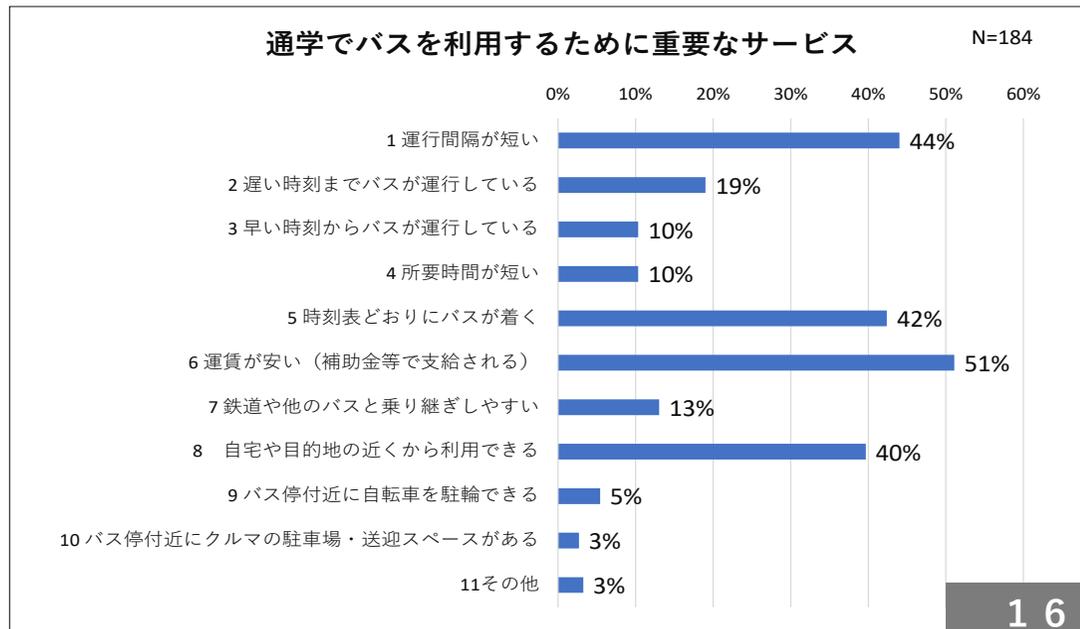
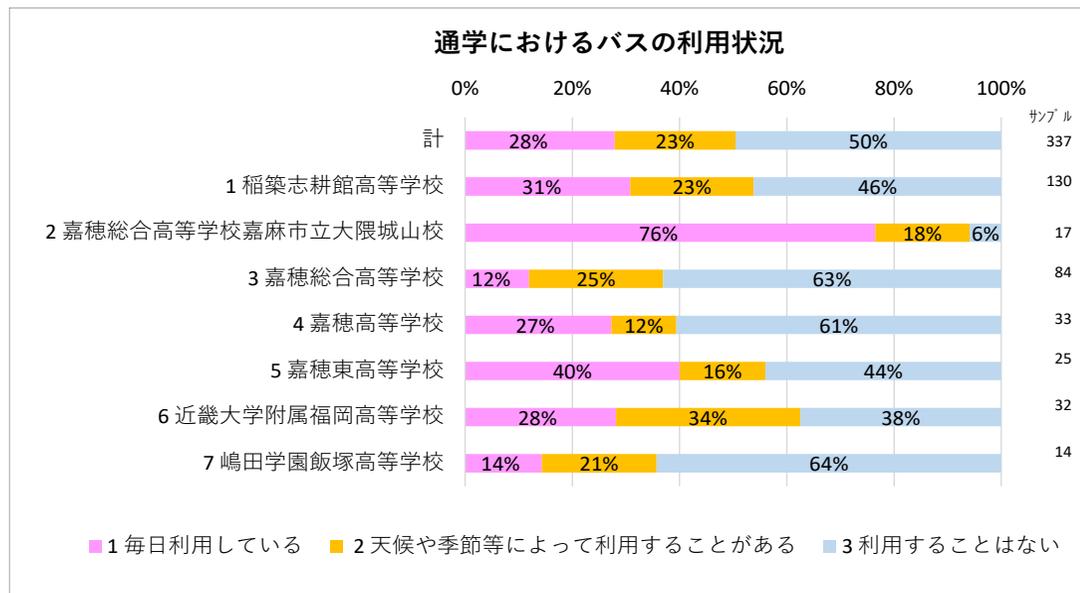
5 市民・利用者のニーズ

【高校生アンケート調査】

通学で利用している交通手段は、「自動車（家族等の送迎）」が58%と最も多く、次いで「自転車」、「バス（西鉄バス・市バス）」の順となっている。通学におけるバスの利用状況は、「毎日利用している」が28%となっているほか、「天候や季節等によって利用することがある」も23%存在し、一時的な利用も視野に入れてサービスや利用促進を検討する必要がある。



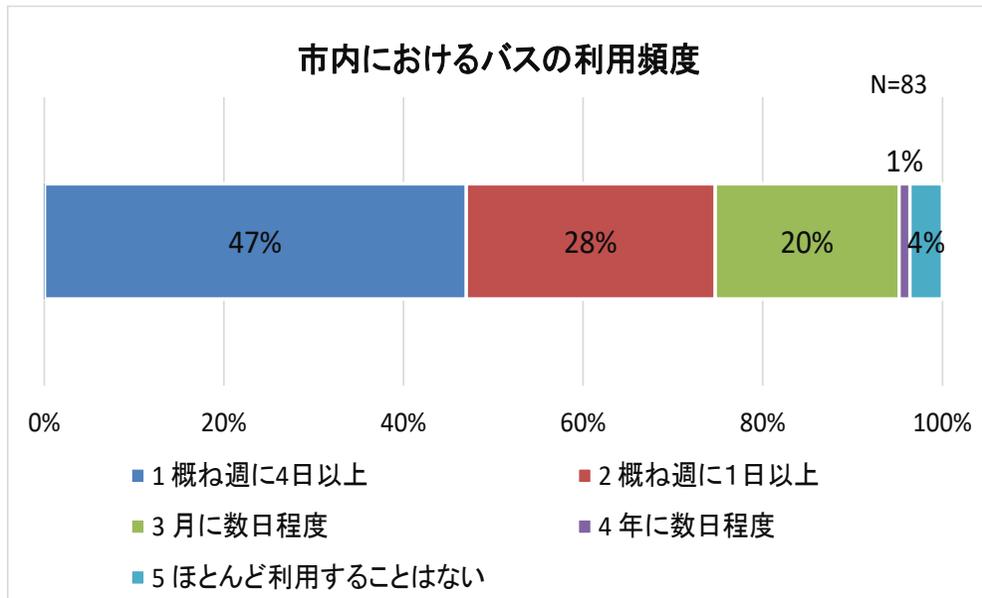
バスを利用するうえで重視するサービスは、「運賃が安い（補助金等で支給される）」「運行間隔が短い」、「時刻表通りにバスが着く」、「自宅や目的地の近くから利用できる」が特に多くなっている。



5 市民・利用者のニーズ

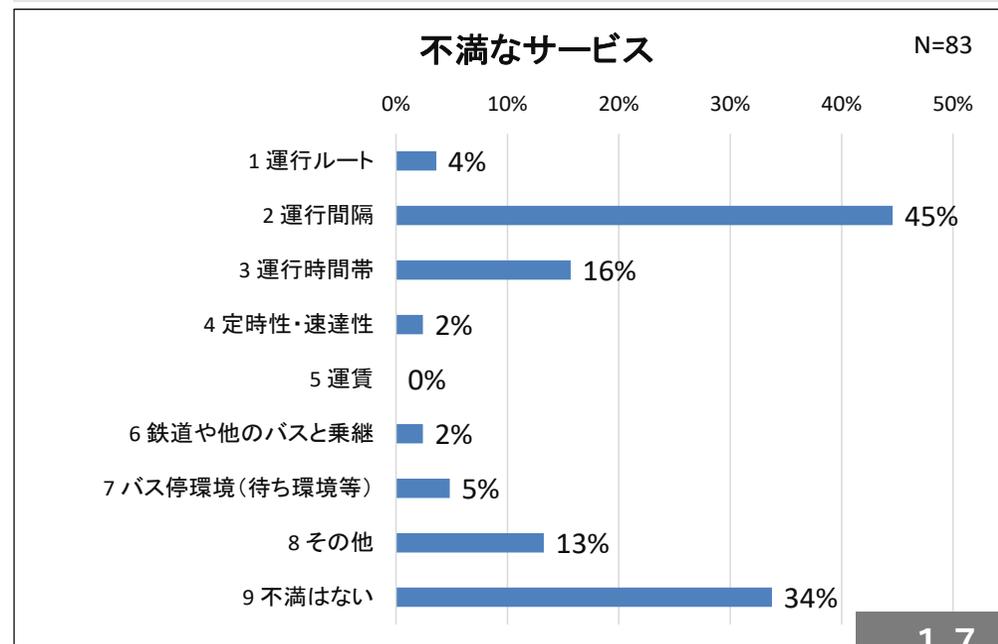
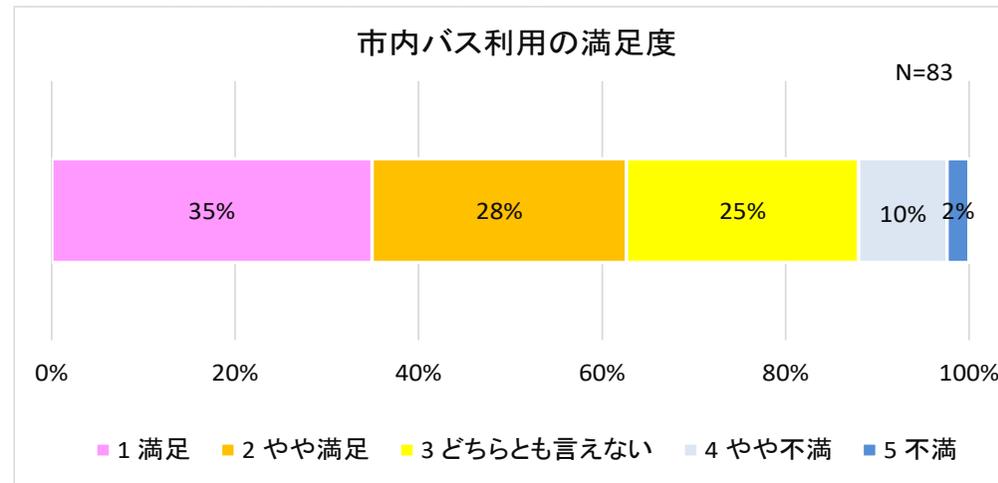
【利用者ヒアリング調査】

市内におけるバスの利用頻度は「1.概ね週に4日以上」が47%と最も高く、次いで「2.週に1日以上」が28%と多い。



利用者の不満なサービスは「運行間隔」が45%と圧倒的に高く、次いで、「運行時間帯」が16%となっている。なお、「不満はない」が34%と2番目に多い。

利用者の満足度は、「満足」が最も多く、「やや満足」と合わせた満足度は6割強と高い。



6 公共交通に関する課題

【参考】課題に対して市民ニーズ等から対応が求められる点

嘉麻市の公共交通に関する「課題」【再掲】

1. 自動車なくても気軽に移動できる環境の創出

■嘉麻市が目指す安全・安心に暮らせるまちづくりを実現するためには、運転に不安を感じる高齢者等が公共交通を利用して、買い物や通院等に負担を感じることなく移動できる運行サービス、乗継・待ち環境、運行情報提供などが必要。
 ■学生は、高校生の通学手段で「家族等の送迎」が最多であるなど負担を伴っていると想定され、交通面は最大の転出要因にもなっていることから、ニーズが高い費用・時間等ができる限り負担にならないようなサービスの確保が必要。

2. 子育て世代や来訪者にとって魅力的な交通サービスが必要

■嘉麻市の活力を維持するため、ニューノーマル（テレワーク進展など新たな生活用式）の機会を捉えた子育て世代の転入促進や観光振興が求められており、交通面からの貢献が必要。
 ■福岡市へのアクセスにおいて、鉄道の利便性は高いものの送迎や駐車場の負担を伴っていると想定され、市民ニーズでもターゲットを絞った維持・充実の意向が高いことから、利便性や付加価値を感じるようなサービスが求められる。

3. 異なる交通モード・路線間の接続、交流や賑わい創出にも寄与する待ち合い環境の充実

■バスを利用しやすくなる・利用が増える取組として「他のバスとの乗継が便利になる」が最多と市民ニーズが非常に高く、交通モード・路線間の接続の改善を図る必要がある。
 ■乗り継ぎしやすさに対する市民ニーズは、ダイヤ接続、運賃の順に高く、ダイヤ接続が一定図られているのに対して、乗継運賃負担軽減に関する取組は行われていない。
 ■待ち環境については、多様なニーズへのダイヤ接続を図るのが難しいことも踏まえ、待ち時間が負担とならないだけでなく、立ち寄りで交流や賑わいが生まれ、外出する楽しみにもなるような交通結節点の環境が求められる。

4. 多様な関係者の主体的な参画と連携による好循環の創出

■本市の公共交通はこれまで事業者、行政主導で運営されてきたが、人口減少や厳しい財政状況下にある一方、ニーズは多様化しており、有効かつ持続可能なサービスを提供するのは困難な局面に差し掛かっている。
 ■第2次嘉麻市総合計画においても市民参画が掲げられ、市民ニーズにおいても「公共交通への市民参画を推進すべき」との意向が8割以上、また「バスの乗り方や経路地がわかりにくい」との声も多いことから、市民を始めとする多様な関係者の双方向コミュニケーションにより、利用しやすいサービス設定と利用促進の好循環を生み出すことが必要。
 ■また、待ち環境等の利用環境向上や利用促進を効率的・効果的に図るためには、各種施設や企業、福祉や健康、教育などの関連分野など多様な関係者との一層の連携も求められる。

関連する主な項目

● デマンド運行型バス

● バス待ち環境

● 情報提供

● 運賃

● 運行ルート、停留所

● 運行間隔、運行時間帯

● 鉄道との接続

● バス乗継のダイヤ接続

● バス乗継の運賃制度

● 交通結節点整備

● 利用促進
● 収支・財政負担

● 運営体制

● 多様な関係者との連携
● 他分野との連携

これまでの取組

● デマンド運行型バスの利便性向上（予約時間変更、予約センター設置）

● 交通結節点などの主要バス停を中心に整備

● ダイヤ情報などを中心とした取組（時刻表配布、バス停デザイン等）

● 高齢者や学生を中心とした割引制度を導入

● 新規路線開設、きめ細かいルート設定、デマンド運行型バスの導入

● 利用が多い時間帯等を考慮したダイヤ設定

● 主に鉄道との接続を意識した市バスのダイヤ設定

● 定期券や回数券を中心とした対応（乗継に特化した割引はない）

● バスステーション、各地域拠点を中心に待ち環境等を整備

● 運賃の値上げなどにより、収支率は大幅に改善（約10%→17%）

● 行政主導での全地域で公平かつ概ね一律のサービスを展開

● 施設へのバス乗入れ、観光周遊を可能とする路線の構築などを実施

市民ニーズ等から対応が求められる点

今後の公共交通サービスの方向性として「高齢者や学生、子育て世代などにターゲットを絞って維持・充実する一方、利用者が少ない路線や時間帯は効率化すべき」が最多。

● 地区を超えた移動へのニーズが高い

● 「バス停への屋根やベンチの設置」は市民ニーズが2番目に高い取組

● 「バスのリアルタイム運行情報（携帯電話、バス停）」は市民ニーズが

● 「運賃」は通学、私用で利用するためのサービスとしてニーズが高い

● 「自宅や目的地の近くから利用できる」は、通勤、私用で利用するために重要なサービスとしてニーズが高い

● 運行間隔は、利用者の不満なサービスとして圧倒的に多い
 ● 運行間隔は通学、運行時間帯は通勤で利用するために重要なサービスとしてニーズが高い

● 「鉄道や他のバスへの乗継」は、通勤、私用で利用するためのサービスとしてニーズが高い

● 「他のバスとの乗り継ぎしやすさ」は、市民ニーズが高い取組。

● 乗継しやすさで重要な取組は「ダイヤ」「運賃」「待ち環境」の順にニーズが高い。

● 収支率は目標値に達していない

● 「バスの乗り方、経路地などがわかりやすくなる」は、市民ニーズが3番目に高い取組。

● 公共交通の充実や利用促進を図るために、「市民（地域）の主体的な参画を推進すべき」と市民の5割以上が回答

● 今後のより一層厳しい財政面、まちづくりへの貢献等の面から、一層の促進が求められる。

7 基本方針と目標

嘉麻市地域公共交通計画における基本方針

まち・ひと・未来をつなぐ

みんなで創り、育て、磨き上げる公共交通の実現

- 多様な手段を活用して、市内4地域(まち)や市外拠点を移動しやすくつなぎ、交流や賑わいを生むことでひとをつなぎ、さらに持続性を高めて未来につなぐことで、魅力的な嘉麻市を支え続ける公共交通を目指します。
- そのため、市民を始め、交通事業者、行政等の多様な関係者の協働によって、公共交通を創り、育て(利用し)、さらに利用しやすく磨き上げることで、利便性と持続性の両立を目指します。

公共交通の課題

自動車がなくとも気軽に移動できる環境の創出

子育て世代や来訪者にとって魅力的な交通サービスの提供

異なる交通モード・路線間の接続、交流や賑わい創出にも寄与する待ち合い環境の充実

多様な関係者の主体的な参画と連携による好循環の創出

本計画の目標

高齢者や学生等の移動負担の軽減

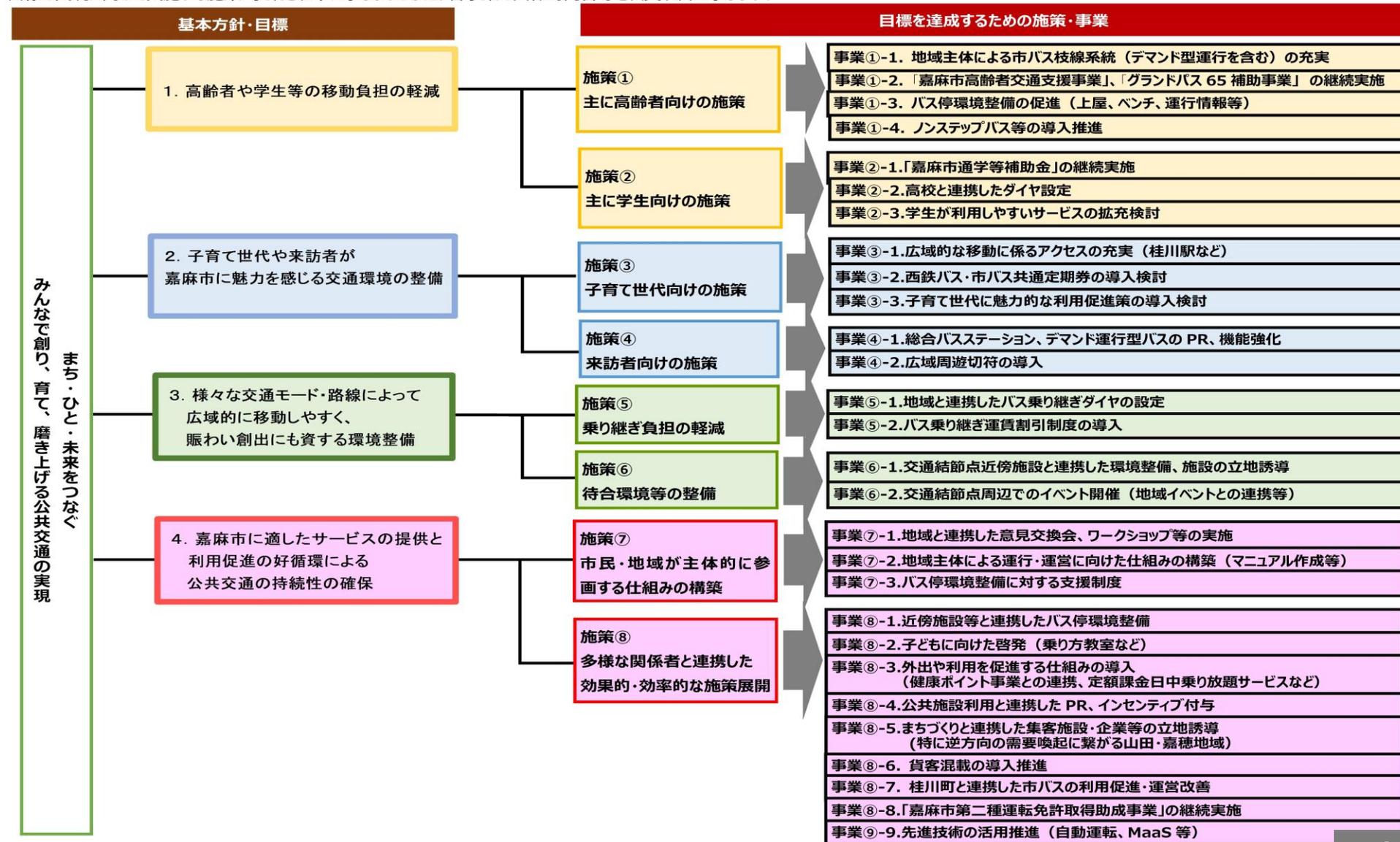
子育て世代や来訪者が嘉麻市に魅力を感じる交通環境の整備

様々な交通モード・路線によって広域的に移動しやすく、賑わい創出にも資する環境整備

嘉麻市に適したサービスの提供と利用促進の好循環による公共交通の持続性の確保

8 目標の実現に向けて実施する施策・事業

目標の実現に向けて実施する施策・事業を以下に示します。また、各事業の具体的内容等を次頁以降に示します。



以下については、現在策定中

9 実施プログラム

- ・課題解決に向けた具体的な施策の整理
- ・施策の実施主体、スケジュール等の整理

10 評価指標・目標値

- ・施策に対する評価指標及び目標値の設定

11 計画の推進

- ・施策の進捗管理及び関係者との連携に関する事項の整理